

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

7月11日(水)に、越生小との梅園小の4年生が、合同の英語授業を行いました。町では2名のALTを小学校に配置しています。歌やゲームなどで交流を深めたほか、ネイティブのALT2名の会話など、普段はできない英語活動を体験することができました。

梅園小学校

6月21日(木)に梅干しづくり体験教室が行われ、1・2・3年生が講師の宮崎勝一郎さん、立川登司さんに指導を受けながら挑戦しました。保護者の皆さんにもお手伝いいただきました。その後土用干しを行い、おいしい梅干しにします。この様子は翌日朝のNHKニュースで7:45分頃放送されました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校

6月28日29日に、越生中学校の伝統行事である立志発表会が行われました。自分の将来を真剣な瞳で語る3年生は、とても大人に見えました。夢の実現に向けて、頑張れ越中生!

越生中学校では、学校教育

ズームイン教育253

日本一を目指す

- 目標「自立の力を育む」のもと、「越中生としての自信と誇り」
- 「授業、部活動、行事に燃える越生中」「目指せ!日本一の越生中」の3つのスローガンを掲げ、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成し、保護者・地域から信頼され、活力のある学校を目指します。
- 今年の学校経営方針と主立った取組**
- ① 家庭学習の定着と学力向上
 - ② 学習の道しるべ」を活用し、学習の仕方や家庭学習の充実に努めます。
 - ③ 学習内容の確実な定着に努めます。
 - ④ 積極的な生徒指導

- ⑤ 地域に信頼される学校作り
- ⑥ 学校運営協議会を充実させ、保護者や地域からの要望を的確に把握し「地域に根ざした信頼される学校」を目指します。
- ⑦ 「自分の身は自分で守る」という意識を高め、自ら安全に行動できるよう防災教育を充実させます。
- ⑧ 地域に信頼される学校作り
- ⑨ 学校運営協議会を充実させ、保護者や地域からの要望を的確に把握し「地域に根ざした信頼される学校」を目指します。

- ⑩ 校歌を自信と誇りを持って、力強く、心を込めて歌える生徒の育成に努めます。
- ⑪ 安心して安全な学校作り
- ⑫ 「自分の身は自分で守る」という意識を高め、自ら安全に行動できるよう防災教育を充実させます。
- ⑬ 豊かな心の育成
- ⑭ 道徳の授業を中心に全教育活動を通して「豊かな心」の充実に努めます。
- ⑮ 越生町「3つのあ(中学生版)」を充実させます。



越生浪漫

No. 115

説経節 若松若太夫

9月9日(日)来演



三代目 若松若太夫

説経節は、鎌倉時代に僧侶が庶民に經典の教義を説いた「説経(教)」が芸能化したものです。室町時代に「さんせう太夫」「小栗判官」「石童丸」「葛の葉」「しんとく丸」など五説経といわれる物語がつくられました。近世初期に流行したのち一時衰退しましたが、寛政の頃江戸で再興され、明治・大正・昭和にかけて初代若松若太夫が活躍しました。初代の没後、二代目若松若太夫は一旦廃業しますが、昭和五十年代に再び語りを復活させました。その後三代目若松若太夫がその芸を受け継ぎ、現在活動をしています。また、現在日本の大衆芸能「演歌」の源流としても注目を浴びています。(板橋区教育委員会作成資料より転載) ◆左は、「渋沢平九郎の墓」がある黒山の全洞院に掲げられている、初

代若松若太夫が渋沢平九郎に寄せて献じた扁額です。山岡鉄雄(山岡鉄舟の孫)の絵に、初代若松若太夫が「植し桜は年々に咲いて昔を物語」と賛を添えています。左下の「飯能の嵐 若松鉄人」の署名は、大野鉄人(本名大野嘉太郎)によるものです。大野は秩父郡北川村(現飯能市北川)に生まれ、鉄舟を慕って上京し、鉄舟の息直紀の家令を務めていました。また、若松若太夫に師事し、昭和9年には、「越生美談 山吹の里」を大野鉄人名で作詞、若松国若太夫名で作曲しています ◆「飯能の嵐 渋沢平九郎自刃の段」は大野の詞に若松若太夫が節を付けて、大正から昭和初年ごろに発表されました。越生では、おそらく初代以来、数十年ぶりとなる、三代目若太夫による再演です。気鋭の研究若桑原功一先生の講演と併せて、郷土の知られざる幕末維新史を知り、悲運の美剣士を想う機会としてください。若太夫の語りと、江戸時代以来の伝統を継ぐ竹間沢車人形との共演もお奨めです。ご来場をお待ちしています。



「渋沢平九郎追慕の扁額」 越生町黒山 全洞院蔵 奉納年月日不明 (150cm×56cm)

スミナガシという和名は、「墨流し」を連想させる翅の模様由来し、良い名前だと思えます。翅裏も翅表と同じような模様ですが、翅裏の地色が黒色であるのに対し、翅表の地色は光沢のある黒みがかかった美しい青緑色です ◆幼虫はアワブキ科のアワブキやミヤマハハソなどを食べます。1齢幼虫は、咬み切った葉を糸でつづり、カーテンのような独特の構造物を作ります。大きな角のある終齢幼虫は葉表におり、保護色になつていますが、緑と灰色の大胆な配色です ◆本種は東北地方以南に分布しており、埼玉県では丘陵から山地にかけて生息し、越生町では山間部でその姿が見られます ◆本種は年2回、

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.76

スミナガシ

「チヨウ目タテハチヨウ科」



石の上で翅を広げるスミナガシ成虫

5月に春型が、7月にやや大型な夏型が発生し、成虫は9月頃まで見られます。成虫はクヌギやヤナギ類などの樹液に集まります。道端で吸水している時や樹液で吸汗している時には、赤い口吻が目立ちます。時には、成虫がヒトの汗に来ることもあり、多数の成虫が「酒屋に飛来した」という報告もあります。成虫が訪花することはほとんどありません ◆雄成虫は、山頂などで一定の場所に止まり、近づく雄などを追い払う、占有行動を行います。また、驚くと葉裏に翅を開いたまま、張り付くように止まりますが、この面白い行動は蛾の仲間でもく見られます。(巢瀬 司)